

浅田宗伯 医案③

御広式添番森村金之丞。久年哮喘を患い、風寒に感触すれば必ず発動して動揺する能わず。余諭して曰く、積年の沈痾一朝薬石の除く所に非ず。唯其の風寒を驅るべし。先ず桂枝加厚朴杏人湯、小青竜湯を以て発汗し、表証解すれば与うるに麻黄甘草湯を以てす。之を服すること二三貼、喘息忽ち和し、動揺常に復し、出仕するを得たり。其の人大いに喜び、毎に此法に倣い、自ら薬を調して効あり。後、年を経て外感稍疎に、喘気大いに減ずと言う。余 多年苦思し、哮喘を治す二法を得たり。風寒に感触する者は発汗を主とす。森村氏の法の如し。寒冷澁飲によるものは外台柴胡鱉甲湯、延年半夏湯等を与えて其の澁飲を驅除し、後、苓桂朮甘湯加没食子（華岡経験方）を散服せしむれば、喘気大いに収む。是を第二法とするなり。